

Perth 滞在レポート

本レポートでは、Perth での私の生活や私が感じたことを中心に紹介していく。次年度のカーティン英語研修生が Perth を訪れる際の参考になれば幸いである。

・日本と大きく違うところ

まずは気候。ほぼ毎日晴れで、雨が降っても1時間ほどで止む。気温も毎日30度を超えるが湿度はそれほど高くないので日本よりは過ごしやすい。ただし、日差しは日本よりも強く、サングラス、帽子、日焼け止めなどは必須。

次に交通機関。バスや電車が主な交通機関となるが、乗車の際にはスマートライダー（日本の Suica や Pasumo と同じもの）を使って料金を払うことになる（もちろん、現金で乗車することもできる）。この時、スマートライダーに入っていたお金で乗車賃が払えなかったとき、逮捕される恐れがあるのでスマートライダーに入っている金額は常にチェックしておく必要がある。さらにバスに関しては、日本のように次の停留所をいちいちアナウンスしてくれないため、止まりたい停留所に近づいたら周りの景色を確認してからブザーを鳴らす必要がある。

またパースは物価が高い。特に食料や水が顕著で、たとえば 500ml のペットボトルの水が 2.6 ドル(約 260 円)、レストランなどで食事すると 10 ドルは軽く飛ぶ。その他にも本やCD、その他お土産など全体的に日本よりも高め。



図1. フィッシュアンドチップス（4人前）

食事についてはホストファミリーに大きく左右されるが、私のホームステイ先ではライスの上にカレーやチキンソースをかけたものが多かった。他にも、パスタやフライドチキン、サラダ、ラザニアなど

を作ってくれたり、時折ピザやハンバーガーを買って来てみんなで食べることも多かった。外ではあまり食事をとらなかったが、Perth 駅前にあるアジア料理屋や、JAWS という寿司屋、Fremantle にあるフィッシュアンドチップスの店など、おいしい料理を出す店はたくさんあった。ただし前述のとおり、外食するとかなりお金がかかる。

・普段の生活について

パース滞在中の普段の生活を以下にまとめてみた。

7:30：起床、朝食(トーストかシリアル)をとる

8:30：家を出る。大学まではバス 2 本で着く。所要時間は 4 5 分ほど。

9:15：大学に到着。授業が始まるまでに購買で買い物をしたりできる。

10:00：午前の授業開始。途中 5 分の休憩を挟んで 12:00 までつづく。

12:00：1 時間の昼休み。たいてい外の広場でホストファミリーが作ってくれたサンドイッチを食べる。

13:00：英語の授業か特別授業を受ける。特別授業では、オーストラリアの文化の勉強をしたり、美術館や動物園に行ったりする。特別授業は都市大生のグループで受ける。

15:00：授業終了、特別授業も大体同じ時間に終わる。放課後は直接帰るか、Perth City に出向くことが多かった。といっても、金曜日以外は 17:00 にはほとんどの店が閉店するため、実質街を回れる時間は 1 時間半もない。

18:30：夕飯。この時間に食べるときは日本人 2 人だけで食べる。20:00 頃に夕食の時は家族全員で食べることが多い。

22:00：5 分だけのシャワーに入る。入ろうと思えばもっと早い時間にシャワーの利用が可能

24:00：就寝

・英語研修プログラムに関して

私のいた G5 のクラスは、教科書の間を 3-4 人のグループに分かれてディスカッションしながら解いて行くのがメインだった。内容は CD で流される会話を聞き取って教科書の問題を解くもの（リスニング）、教科書のエッセイを読んで問題に答えるもの（リーディング）、高校レベルの文法問題がほとんどで、使われている英語自体はそれほど難しくはなかった。

しかし CD や教師、他の生徒の英語をうまく聞き取ることが出来ず、問題をよく理解していないのに取り組まなければならないことがよくあった。また、英語で自分の意見を話すのにもかなり苦勞した。

・ホストファミリーのこと

都市大からは私のほかにもう一人の生徒とともにホームステイ先にお世話になった。ホストファミリーはインド系オーストラリア人で、父母と娘の 3 人暮らし、ホストファミリー歴 8 年のキャリアの人たちだった。

また、自分たちのほかにブラジル人のホームステイが 3 人いて、一人 1 部屋与えられていた（ブラジル人の 2 人は相部屋）。

ホストファミリーは優しく、英語もゆっくりとしゃべってくれたので聞き取りやすかった。そのため、コミュニケーションも円滑にでき、楽しい 3 週間を過ごすことができた。

また、私たちが近くの湖やショッピングセンターに連れて行ってほしいと言ったとき、気軽に連れて行ってくれたので、とてもうれしかった。

3人のブラジル人もとてもフレンドリーで、カジノに連れて行ってもらったり、一緒にポーカーをプレイしたりした。会話はもちろん英語で行ったが、3人とも英語が達者だったので問題なく聞き取ることができた。

・おすすめ観光スポット

景色の良い観光地は **KingsPark** や **Margaret River**、**Rottnest island** などがそうである。これらの観光地は大学から離れた場所にあるので自分たちだけで行くのは難しいが、大学のプログラムで行くことになっているので移動を心配する必要はない。特に **Rottnest island** ではマウンテンバイクに乗ってサイクリングが楽しめたり、きれいなビーチで泳いだりできるため、大いに楽しむことができた。



図 2. Rottnest island の風景

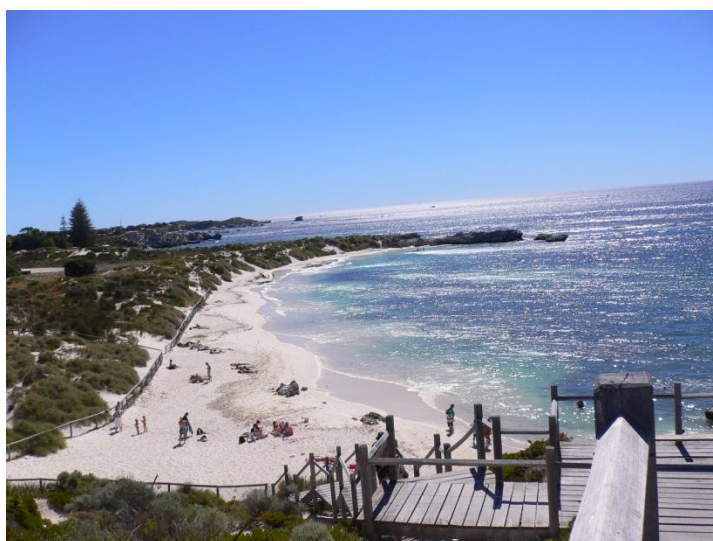


図 3. Rottnest island のビーチ

また、買い物を楽しむなら **Perth City** や **Fremantle** がおすすめである。

Perth City は大学から電車とバスで 30 分程で向かうことができ、学校帰りでも気軽に遊びに行ける。土産物屋、洋服店、飲食店、電気屋など、一通りのものはここで揃う。

Fremantle はお土産店ばかりで、土日には市場が開かれる。学校からはかなり遠いため、休日に行くのがおすすめである。また、**Fremantle** は **Perth City** よりも狭いため、買い物だけならすぐに飽きてしまう。**Fremantle** には無料で入れる博物館や、フリマントル刑務所など観光にうってつけの建物が多いため、そちらをメインで見回った方が面白い。



図 4. Kings Park から撮影した Perth City

・研修前と研修後とで自分自身に変化した点、発見したこと

研修前、私は英会話なんて英和辞典さえあればあとはジェスチャーで何とかかなと思っていたが、それは大間違いだった。なにせ、リスニングが全然できない。というのも話すスピードが速すぎて単語を拾うことさえ困難といった具合で、仮にいくつか単語を拾えたとしても全体として何を聞かれているのか、何が言いたいかを理解しなければまともに会話できないということがよくわかった。反面、こちらから話すときは **5W1H** に気を付けてさえいればカタコトでも何とか通じることが多かった。今回の研修を通して、自分がいかに英語ができないかを痛感した。反面、単なる会話だけなら片言でもなんとか通じるといことも分かった。英語の勉強、特にリスニングを重点的に行うことと、間違いを恐れずに英語を話すことが重要だということが分かった。

・感想

今回の英語研修で、自分の英語能力を正確に把握することができたり、英語を話すことの抵抗を薄れさせたり出来たため、意義のある研修となったといえる。また、**Perth** はとてもきれいな場所で、プライベートでもまた訪れたいと思った。